

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
------	----	-----	----	-----	----	-----

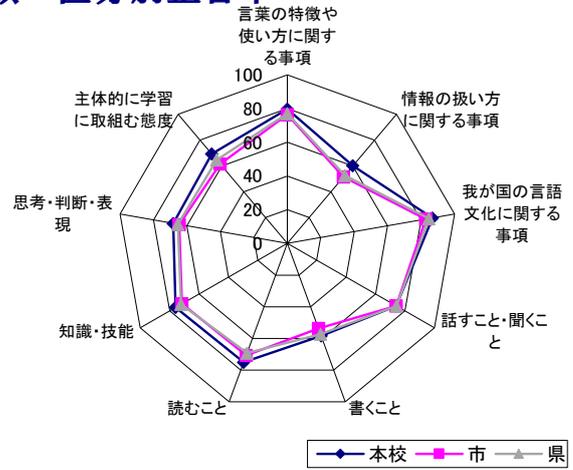
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	79.7	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	60.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	86.8	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	74.1	74.1	74.2
	書くこと	58.3	53.7	57.2
観点	読むこと	75.0	70.7	69.2
	知識・技能	76.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	68.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	69.2	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

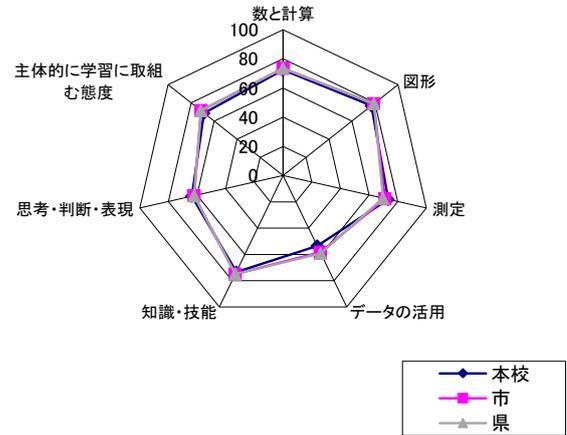
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○領域の平均正答率は79.7%で、市の平均より3.3ポイント高い。特に前年度に履修した漢字の書き取りについての設問は、全て市の平均を上回った。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の平均正答率は48.7%で、市の平均より1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・新出漢字は、指書きやなぞり書き、写し書きといったステップを踏んだ指導を行い、その日の宿題に出すなどして反復練習する機会を意図的に設けた。今後も工夫しながら継続していく。</p> <p>・意見文や説明文の教材を扱う際に、段落の意味や役割について重点的に指導する。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の平均正答率は73.7%で、市の平均を22.9ポイント上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く設問の平均正答率は36.8%で、市の平均と同等であるが、無解答率が15.8%と高くなっている。</p>	<p>・調べたりインタビューしたりして得た情報を、メモの形で短くまとめる練習をする。</p> <p>・得た情報を取捨選択し、必要な情報をもとに順序立てて文章を書く機会を増やしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○漢字のへんやつくりを理解しているかどうかについての設問の平均正答率は86.8%で、市の平均を4ポイント上回っている。</p>	<p>・漢字の成り立ちやへんやつくりの意味について考えさせる機会を確保し、興味や関心を高めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話しているかどうかの設問の平均正答率は84.2%で、市の平均を13.2ポイント上回っている。</p> <p>●話し手が伝えたいことを中心をとらえているかどうかの設問の正答率は60.5%で、市の平均より13.3ポイント下回っている。</p>	<p>・自分の考えを伝える際には、自分の主張と理由を明らかにして、さらに聞き手に分かりやすい話し方ができるように指導する。</p> <p>・授業や朝のスピーチの時間に、相手の伝えたいことは何かを考えながら聞く機会を設ける。</p>
書くこと	<p>○自分の考えを明確にして文章を書く設問の平均正答率は81.6%で、市の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>●文章を書く設問における無解答率が高い。</p>	<p>・興味や関心があるテーマについて、短い文を書かせたり日頃から日記等を書かせたりすることで、理由や考えたことなどに、気をつけて書くことができるように指導していく。</p>
読むこと	<p>○領域の平均正答率は75.0%で、市の平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>●叙述を基に段落の内容を捉える設問の平均正答率は44.7%で、市の平均を3ポイント下回っている。</p>	<p>・書かれている内容を正しく読み取ったり、整理したりすることができるように、段落ごとに要旨を短くまとめる練習を重ねる。</p> <p>・読書の時間を積極的に設けることにより、文章の内容を読み取る練習をする。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	73.5	73.6
	図形	76.8	79.0	79.1
	測定	73.4	71.1	69.8
	データの活用	53.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	73.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	63.7	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	68.8	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

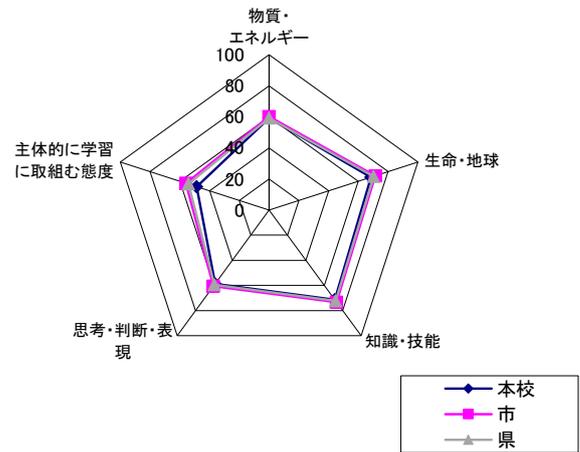
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○2桁×1桁の計算では、平均正答率は85.5%で、市の平均より6.3ポイント高い。</p> <p>○除法の文章問題の答えを求める設問では、平均正答率は86.8%で、市の平均より7.4ポイント高い。</p> <p>●整数-小数第1位の計算では、平均正答率は44.7%で、市の平均より8.9ポイント低い。</p> <p>●2桁×2桁の計算では、正答率は57.9%で、市平均より10ポイント低い。</p>	<p>・3年生までの復習問題や計算ドリル、フォローアップ問題を活用して反復練習を継続することで、基本的な計算力の定着を図っていく。</p>
図形	<p>○円の半径を求める設問では、平均正答率は81.6%で、市の平均より4.5ポイント高い。</p> <p>●球の半径から箱の辺の長さを求める設問では、平均正答率は64.5%で、市の平均より7.3ポイント低い。</p>	<p>・円や球についての理解を深めるため、具体物などを利用して直径や半径の意味を確認し、復習問題やフォローアップ問題を活用して習熟を図る。</p>
測定	<p>○ある時刻から一定時間経過する前の時刻を求める設問では、平均正答率は69.7%で、ほぼ市の平均と同等となっている。</p> <p>○単位の前にキロメートルが付くと、もとの単位の1000倍になることを説明する問題では、平均正答率は65.8%で、市の平均より9.6ポイント高い。</p>	<p>・復習問題やフォローアップ問題を活用して理解を深めていく。また、算数の授業の中で様々な秤を使って重さを測り、目盛りを読む活動を充実させ、習熟を図っていく。</p>
データの活用	<p>○棒グラフの1目盛りの大きさに着目し、間違いを説明する設問では、平均正答率は61.8%でほぼ市の平均と同等となっている。</p> <p>●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る設問では、平均正答率は48.7%で市の平均より7.7ポイント低い。</p>	<p>・復習問題を活用することで、表題や1目盛りの数に着目しながら基本的なグラフが正しく読めるように理解を深めていく。棒グラフを書く活動を繰り返し行い、習熟を図っていく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.2	60.2	59.2
	生命・地球	68.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	71.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	48.7	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「物の重さ」の実験の結果から物の形を変えても重さは変わらないことを考察する設問では、平均正答率は72.4%で、市の平均を5.9ポイント上回っていた。実験を通して体験的に学んだ内容はよく理解されていた。</p> <p>○実験の予想が正しいとき、得られる結果を推測できるかという設問では、平均正答率は55.3%で、市の平均より4.2ポイント上回っている。</p> <p>●磁石の性質の極を確かめる方法を構想することができるかの設問では、平均正答率が48.7%と低く、さらに、市の平均を8.1ポイント下回っている。</p>	<p>・電気の通り道や磁石の性質など、実験で体験的な学習を多く取り入れて、理科に関する興味・関心を高めるとともに知識の定着を図る。</p> <p>・「用語」を含めた基礎的な知識を復習する機会を設ける。同時に、言葉での確に表現することができるよう、指定された用語を用いて説明する活動や、定型文を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。</p> <p>・極表示のある磁石を使って、表示のない磁石のN極、S極を見つけさせることで、理解を深めさせる。また、方位磁針や磁石を自由に動かせるようにして、南北の極について触れる時間を確保していく。</p>
生命・地球	<p>○太陽と地面のようすについての設問では、平均正答率は50%で、市の平均より9.1ポイント上回っているものの、正答率は低い。</p> <p>○方位磁針の正しい使い方についての設問の平均正答率は67.1%で、市の正答率より3.3ポイント上回っていた。</p> <p>●昆虫の育ち方に関する設問では、平均正答率は48.7%で、市の平均を11.5ポイント下回っていた。</p> <p>●昆虫の体のつくりに関する設問は平均正答率は61.8%で、市の平均より6.9ポイント下回っており、正答率が低かった。</p>	<p>・野外や昆虫の観察などでは、何に注目して観察したらよいかを考えてから観察できるよう指導する。また、個人で観察カードを書いてから全体で話し合い、考えを共有させることで、自分の考えを深められるようにする。</p> <p>・既習内容の定着を図るために、計画的に復習する時間を設ける。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問に対しての肯定的回答率は88.2%で、高い水準を示している。また、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対しての肯定的回答率は70%で、市の平均を10ポイント上回っていた。このことから本校児童は家庭学習に対する意識が高く、自主学習への意欲も高いと考えられる。今後も継続できるよう励ましていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対しての肯定的回答率は72%であり、中でも自信をもって「はい」と答えた児童は49%で、市の平均を10ポイント上回っている。また、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」という質問に対しての肯定的回答率は85.5%で、「はい」と答えた児童は65.8%と市の平均を18ポイントも上回った。このことから、グループ学習が子どもたちが主体的に学習に取り組む姿勢に良い影響を与えていると考えられる。話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、今後も工夫していきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」という質問に対しての肯定的回答率は89.5%で、市の平均を10ポイント近く上回った。学級経営との関連を意識しつつ、さらに向上できるよう支援していきたい。

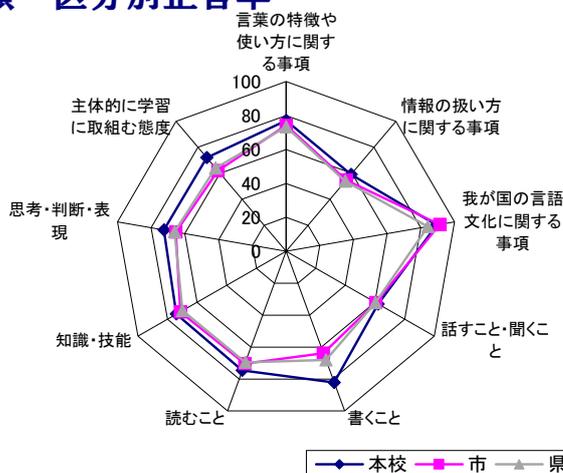
○「人と話すことは楽しい」という質問に対して、「はい」と回答した児童は92.1%で、市の平均を13ポイント上回った。肯定的回答をすべて合わせると97.4%となり、子どもたちの素直で外交的な一面が見て取れた。今後も前向きで明るい生活が送れるよう励ましていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問に対しての肯定的回答率は39.4%で、市の平均を10ポイント下回った。タブレット学習が盛んに行われてきていることを考えると、積極的にインターネット学習を進めていく必要を感じる。職員の研修を積極的に行うとともに、子どもたちへの働きかけを進んで行っていきたいと考える。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.0	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	59.1	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.4	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	62.1	60.6	60.4
	書くこと	82.2	63.8	68.0
	読むこと	74.7	70.4	69.6
観点	知識・技能	74.0	71.3	69.9
	思考・判断・表現	72.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	72.1	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

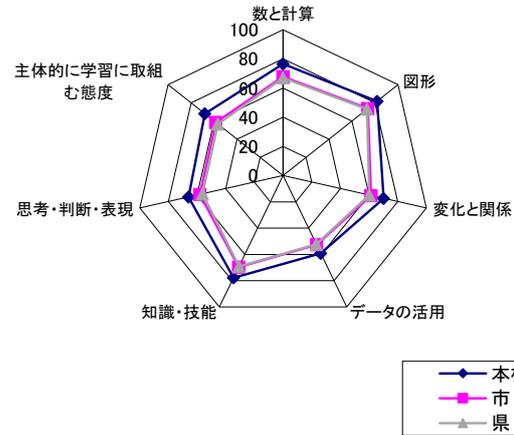
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は77.0%で、市の平均より2.2ポイント高い。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は78.8%で、市の平均より21.2ポイント高い。</p> <p>●漢字の読み書きの設問で、市の平均を下回っているものがある。</p>	<p>・漢字の読み書きについて、漢字ドリルを活用して反復練習を継続するとともに、様々な読み方や使い方、同じ読み方の漢字の使い分け等も確認しながら指導する。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は59.1%で、市の平均より4.4ポイント高い。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら説明する設問の平均正答率は54.5%で、市の平均より8.8ポイント高い。</p> <p>●漢字辞典の正しい使い方を選ぶ設問の平均正答率は74.2%で、市の平均より2ポイント低い。</p>	<p>・漢字辞典の使い方について復習するとともに、学習や生活の中で必要に応じて活用できるように指導する。</p> <p>・漢字の学習では、部首や画数についても意識して指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●領域の平均正答率は89.4%で、市の平均より1.8ポイント低い。</p> <p>●ことわざの意味を知り、正しく使う設問の平均正答率は89.4%で、市の平均より1.8ポイント低い。</p>	<p>・スタンダードダイアリーを活用するなどして日常的にことわざに触れる機会を設けることで、ことわざのよさに気付かせるとともに、生活の中で進んで使おうとする意欲が高まるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は62.1%で、市の平均より1.6ポイント高い。</p> <p>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の平均正答率は60.6%で、市の平均より6.8ポイント高い。</p> <p>●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考え方をまとめる設問の平均正答率は56.1%で、市の平均より10.2ポイント低い。</p>	<p>・国語や他の学習、生活の場面で、話し合いの場を意図的に設定し、話し合いのスキルを高めたり、輪番で司会を担当するなどして、異なる考えをまとめる経験を積ませたりする。</p>
書くこと	<p>○領域の平均正答率は82.2%で、市の平均より19.4ポイント高い。</p> <p>○指示された文字数、段落構成の条件に合わせて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができおり、すべての設問の平均正答率が市の平均を大きく上回っている。</p>	<p>・今後も様々な学習場面で書く活動を積極的に取り入れていくとともに、目的やテーマに合わせて効果的に書くことのよさや必要性について気付けるように指導する。</p>
読むこと	<p>○領域の平均正答率は74.7%で、市の平均より14.3ポイント高い。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら説明する設問の平均正答率は54.5%で、市の平均より8.8ポイント高い。</p> <p>○登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する設問の平均正答率は62.1%で、市の平均より2.0ポイント高い。</p>	<p>・段落相互の関係を捉える設問の平均正答率は市の平均を上回っているものの48.5%で決して高いとは言えないので、キーワードに着目したり要約したりしながら、段落相互の関係を意識して読む力を身に付けられるように指導する。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.6	67.8	67.0
	図形	81.8	73.9	73.1
	変化と関係	70.2	61.4	60.2
	データの活用	59.1	52.7	52.1
観点	知識・技能	77.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	66.0	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	68.2	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

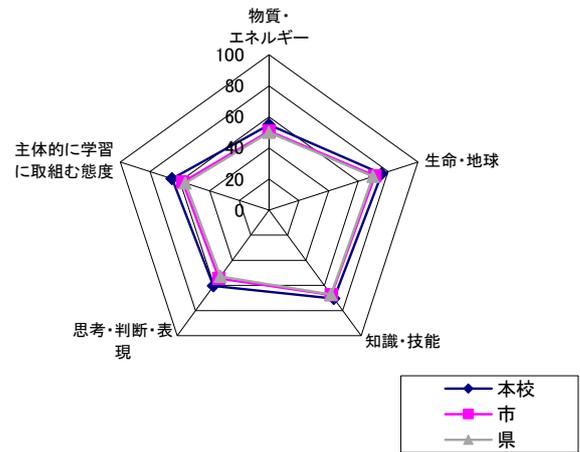
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○概数に対応する数の範囲を求める設問の平均正答率は71.2%で、市の平均より17.1ポイント高い。</p> <p>○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ設問の平均正答率は78.8%で、市の平均より10.5ポイント高い。</p>	<p>・今後も授業において日常生活での具体的な場面を取りあげて数の大きさを身近に捉えられるよう指導していく。</p> <p>・文章問題を最後まで読んで、順序立ててテープ図や数直線で表し考えていけるように、様々な演習問題を適宜学習に取り入れていく。</p>
図形	<p>○四角形の辺の長さの性質を理解しているかどうかを問う設問の平均正答率は83.3%で、市の平均より10.8ポイント高い。</p> <p>○ひし形を作図する設問の平均正答率は95.5%で、市の平均より15.4%高い。</p>	<p>・作図の学習では、まず図形の性質を確認させ、どの性質を使えば作図できるか丁寧に指導していく。</p>
変化と関係	<p>○伴って変わる二つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問の平均正答率は95.5%で、市の平均より7.3ポイント高い。</p> <p>○基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらの包帯が良く伸びるのかを説明する設問の平均正答率は54.5%で市の平均より12ポイント高い。</p>	<p>・二つの数量関係を表す式では、対応する値の組をいくつも求めながら、表に整理する活動を取り入れることで、表と式を結びつけられるよう工夫する。</p> <p>・二つの数量の関係を比べる場合は、差でみるのか割合でみるのか判断できるよう問題場面に具体的な数をあてはめながら式が立てられるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>○二つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問の平均正答率は40.9%で、市の平均より9ポイント高い。</p> <p>○二次元表を読み取る設問の平均正答率は62.1%で、市の平均より10.5ポイント高い。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取る設問の平均正答率は53.0%で、市の平均より1.2ポイント低い。</p>	<p>・自分が導いた答えを順序立てて論理的に説明することができるように、ノートにまとめたりグループで学んだりする機会を今後も設ける。</p> <p>・社会や理科など他教科と結び付けながら、グラフの種類によって読み取れる特徴が異なることに気付かせ、グラフから必要な情報を読み取ることができるよう指導していく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.9	50.8	50.0
	生命・地球	75.7	71.1	69.8
観点	知識・技能	70.5	67.6	67.2
	思考・判断・表現	60.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○物のあたためり方の実験で、予想が正しい場合に得られる結果を推測する設問では、平均正答率が69.2%と市の平均より10.3ポイント上回っている。</p> <p>○冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を考えて答える設問では、平均正答率が64.6%と市の平均より20.8ポイント上回っている。空気のあたためり方をもとに考えて説明できる回答が多かった。</p> <p>●閉じ込めた、空気と水の実験結果から噴水のように水が出る原理を答える設問では、平均正答率が44.6%と市の平均を6ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎的な知識の習得を図ることに加え、「理科的用語」を的確に用いて表現することができるように支援する。</p> <p>・文や図、表を用いて結果を正しく記録したり、結果から分かったことを書いたりする活動を意図的に取り入れ、書く時間や言葉を吟味する時間を確保する。</p> <p>・正しい実験器具の使い方を身に付けられるように、実験器具の操作活動を充分取り入れる。</p>
生命・地球	<p>○水のゆくえに関する設問では、全てにおいて市の平均を上回っている。土の粒の大きさと水はけの関係を問う設問では、平均正答率が81.5%と市の平均を17.4ポイント上回っている。</p> <p>○満月の見える方位を問う設問では、平均正答率が69.2%と市の平均より13.9ポイント上回っている。また、満月の1日の動きについての設問でも、平均正答率が81.5%と市の平均より14.2ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方を問う設問では、平均正答率が32.3%と市の平均を6.9ポイント下回っている。</p>	<p>・ICTを効果的に活用することで、実験器具や現象の名称、定義を正確に覚えて使用することができるように指導する。</p> <p>・実生活と結びつけながら学習を進めることで、今後も身近な環境に興味を持って科学的に物事を捉えられるよう支援していく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」という質問に対する肯定的回答率は90.8%で、市の平均と比べると19.6ポイント上回っている。また「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対する肯定的回答率は81.6%で、市の平均と比べると20.4ポイント上回っている。このことから、児童は自分の課題を見つけて、進んで家庭学習に取り組んでいることが分かる。さらには、他の質問の回答から、授業の復習や、テストで間違えた問題について学習している様子が伺えた。今後も、児童の自主的な学習の取組を称賛しながら、自主学習の進め方を助言するなどして、より幅広く学習を深めていけるよう支援の充実を図りたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対する肯定的回答率は86.2%で、市の平均と比べると11.5ポイント上回っている。自分の考えをもって話し合いに参加し、友達の考えと比較することができるよう支援してきた成果と考えられる。今後も、話し合いの形態を工夫しながら、学級全体で学び合える授業の充実に努めていきたい。

○「学校のきまりを守っている」という質問に対する肯定的回答率は100%で、市の平均と比べると7.1ポイント上回っている。また「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という質問に対する肯定的回答率は98.5%で、市の平均と比べると6.5ポイント上回っている。今後も高学年としての模範的行動や、一人一人の頑張りを称賛していくことで、児童の活動意欲と自己肯定感を高めていきたい。

●家庭学習の時間については、本校で5年生の目安とする1時間以上取り組んでいる児童の割合は55.4%で、市の割合と比べて4.5ポイント下回っており、十分とは言えない状況である。今後は、宿題の量や質についての見直しを図り、家庭学習の内容の充実に加えて、家庭学習に取り組む時間についても児童が意識していけるよう努めたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを深め、多様な方法で効果的に伝える児童の育成	すべての学年で、絵や図、言葉で表現する活動を、継続的かつ計画的に取り入れている。 児童の思考が深まるように、教師の発問や学習活動を工夫している。	4年生、5年生共に、国語の「書くこと」の領域における正答率や、観点別に見た「思考・判断・表現」における正答率が、市の平均と比べて上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
話し手の意図を捉えながら聞いたり、相手と自分との意見の相違点に着目して考えをまとめたりする問題の正答率が低くなっている。	話し合い活動の充実	授業の中で自分の考えを伝えあう場を、形態を工夫しながら意図的に位置付ける。